

都市再生整備計画 事後評価シート
秩父鉄道行田市駅周辺地区

令和3年2月
埼玉県 行田市

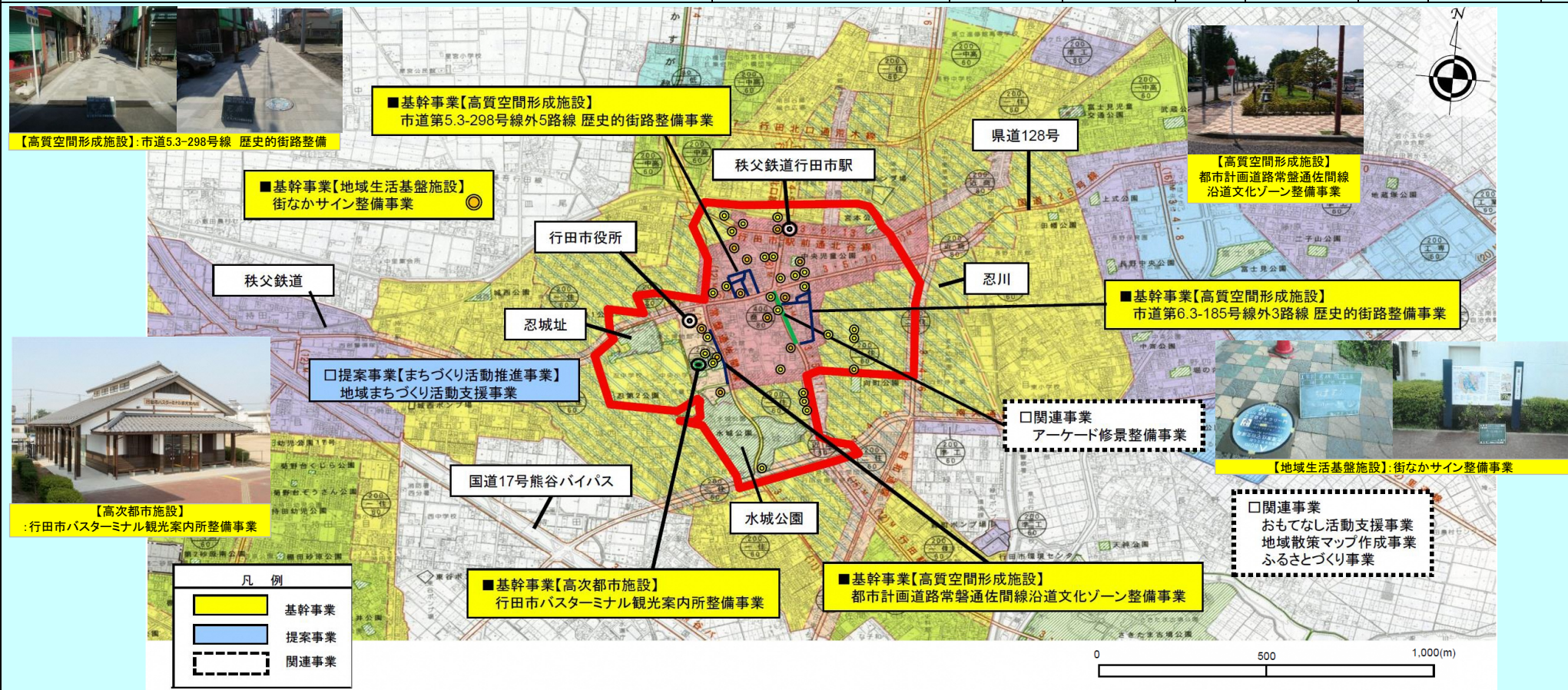
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県	町町村名	行田市	地区名	秩父鉄道行田市駅周辺地区	面積	110 ha							
交付期間	平成27年度～令和元年度	事後評価実施時期	令和2年度	交付対象事業費	307.7百万円 国費率 0.4									
1) 事業の実施状況	事業名													
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	・地域生活基盤施設(街なかサイン整備事業) ・高質空間形成施設(市道第5.3-298号線 歴史的街路整備事業、市道第5.3-303号線 歴史的街路整備事業、市道第5.3-304号線 歴史的街路整備事業、市道第5.3-306号線 歴史的街路整備事業、市道第5.3-308号線 歴史的街路整備事業、市道第5.3-310号線 歴史的街路整備事業、市道第6.3-185号線 歴史的街路整備事業、市道第6.3-158号線 歴史的街路整備事業、市道第6.3-164号線 歴史的街路整備事業、市道第6.3-186号線 歴史的街路整備事業、都市計画道路常盤通佐間線沿道文化ゾーン整備事業) ・高次都市施設(行田市バスターミナル観光案内所整備事業)											
		提案事業	・まちづくり活動推進事業(地域まちづくり活動支援事業)											
			事業名	削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響								
		当初計画から削除した事業	基幹事業											
		新たに追加した事業	基幹事業											
	交付期間の変更	当初	平成27年度～令和元年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
		変更	なし											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期					
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値								
	指標1	まちづくり活動への参加者希望率	%	48.1	H21	70.0	R2	45.3	×	あり	●	なし	本計画において、地域まちづくり活動支援事業として「まちにぎワークショップ」を開催するとともに、各種の事業を実施しているが、住民のまちづくり活動参加意向への影響は少なかった。	
	指標2	街なみ満足度	%	32.0	H21	45.0	R2	41.6	△	あり	●	なし	目標の達成には至らなかったが、本計画における「都市計画道路常盤通佐間線沿道文化ゾーン整備事業」や市道の「歴史的街路整備事業」等が、街なみの改善に一定の効果をもたらしている。	
	指標3	中心市街地の人口減少率	%	-5.6	H22	-2.8	R2	-6.7	×	あり	●	なし	本計画において実施された各事業は、街なみの改善や観光案内・交流機能の向上には一定の効果があったが、人口減少の抑制にあまり効果を発揮しなかった。	令和3年4月以降
指標4	地区内観光入込客数	人/年	350,000	H25	450,000	R2	295,000	×	あり	●	なし	本市の観光客増加に大きく貢献した映画「のぼうの城」やテレビドラマ「陸王」による誘客効果が徐々に薄れてきていること、さらにこの間に中止となったイベントがあることや、令和元年度末からの新型コロナウイルスによる影響により目標達成に至らなかった。		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期					
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値								
	その他の数値指標1	地域活動の所属割合(自治会、NPO団体、ボランティア団体等)	%	46.0	H27			51.0	/	/	/	/	市民主体のまちづくり推進の成果として、実際に地域活動(自治会、NPO団体、ボランティア団体等)に参加している市民の割合は増加している。	
	その他の数値指標2	住民基本台帳による中心市街地人口の減少率	%	-5.1	H27			-4.6	/	/	/	/	住民基本台帳による最新のデータによれば、中心市街地の人口減少傾向は抑制されつつある。	
その他の数値指標3	中心市街地の主なまつり(浮き城まつり、忍城時代まつり、酒の市)の入込客数	人/年	114,000	H25			119,000	/	/	/	/	歴史的資源が持つ魅力を活かした個性あるまちづくりに関して、一定の成果が表れている。		
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的街路整備事業により整備された路線が市民や来訪者に好評である。 歴史的街路整備事業により整備された道路の沿道建物が、まち並み景観形成先導モデル事業によって修景整備を行うケースが増えてきており、良好な街なみ景観が形成されようとしている。 													
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等							
	モニタリング	まちづくり意識調査研究	都市再生整備計画に記載し、実施できた			●								
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
住民参加プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的街路整備事業に伴う住民説明会の開催 市民活動の活性化に向けた課題と活動方針を明らかにする「まちにぎワークショップ」の開催 「まちにぎワークショップ」の成果を踏まえた「緑化活動」の実施 	都市再生整備計画に記載し、実施できた			●									
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した												
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												
持続的なまちづくり体制の構築	行田市バスターミナル観光案内所における利用者の要望・苦情対応	都市再生整備計画に記載し、実施できた			●									
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した												
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				・要望・苦情対応に対する取組を継続する。								

様式2-2 地区の概要

秩父鉄道行田市駅周辺地区(埼玉県行田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 行田らしさを活かした街なみ景観と賑わいの創出による中心市街地の活力増進 小目標①: 忍城址や足袋蔵などの歴史的資源が持つ魅力を活かした個性あるまちづくりの推進 小目標②: まちなかの活性化促進に向けた、人々を市街地へ誘導し回遊させる仕組みづくり 小目標③: 都市機能の充実による市民が心豊かで快適に暮らせるまちづくりの推進	まちづくり活動への参加者希望率	%	48.1	H21	70.0	R2	45.3	R2
	街なみ満足度	%	32.0	H21	45.0	R2	41.6	R2
	中心市街地の人口減少率	%	-5.6	H22	-2.8	R2	-6.7	R2
	地区内観光入込客数	人/年	350,000	H25	450,000	R2	295,000	R2



まちの課題の変化

- ・主に中心市街地における市民の地域活動(自治会、NPO団体、ボランティア団体等)への所属割合は増加している。
- ・空き店舗等を活用した事業展開を行い、その後市内に定着して営業を継続している事業者がいる。
- ・歴史的街路整備事業等により、道路空間が整備され、歴史・文化的資源との一体感が形成された。
- ・行田市バスターミナル観光案内所の整備により、観光案内機能の向上が図られた。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・歴史的街路事業等により整備された道路空間の適正な管理や沿道建物の修景整備により、歴史的・文化的資源と調和した街なみの維持と向上を図る。
- ・整備された行田市バスターミナル観光案内所の適正な管理やアクセス性の向上により、観光案内機能の維持と向上を図る。
- ・既存のまちづくり活動に関する情報発信とともに、行政や関係団体等との連携により、市民主体のまちづくり活動の継続・拡大と市民意識の啓発を図る。
- ・各種イベント等の情報発信とともに、歩行動線に併せたにぎわいの創出や休憩スペース等の充実により、回遊性と魅力の向上を図る。
- ・空き家などの既存ストックの利活用や、多様な住まい方の提供より、中心市街地における一定の定住人口の確保を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
道路(都市再 構築戦略事 業)									
公園									
公園(都市再 構築戦略事業)									
古都保存・緑 地保全等事業									
河川									
下水道									
駐車場有効利用 システム									
地域生活基盤施 設	街なかサイン整備事業	11.7	20基	6.4	37基	事業期間の短縮及び事業費の減額	影響なし	●	
高質空間形成施 設	市道第5.3-298号線 歴史的街路整 備事業	21.4	L=130m	37.2	L=130m	事業期間の延長及び事業費の増額	影響なし	●	
高質空間形成施 設	市道第5.3-303号線 歴史的街路整 備事業	3.8	L=63m	4.7	L=63m	事業期間の延長及び事業費の増額	影響なし	●	
高質空間形成施 設	市道第5.3-304号線 歴史的街路整 備事業	20.7	L=115m	29.6	L=115m	事業費の増額	影響なし	●	
高質空間形成施 設	市道第5.3-306号線 歴史的街路整 備事業	21.7	L=100m	9.6	L=100m	事業期間の延長及び事業費の減額	影響なし	●	
高質空間形成施 設	市道第5.3-308号線 歴史的街路整 備事業	2.8	L=46m	3.4	L=46m	事業期間の延長及び事業費の増額	影響なし	●	
高質空間形成施 設	市道第5.3-310号線 歴史的街路整 備事業	10.4	L=73m	24.4	L=73m	事業期間の延長及び事業費の増額	影響なし	●	
高質空間形成施 設	市道第6.3-185号線 歴史的街路整 備事業	74.9	L=275m	62.3	L=275m	事業期間の延長及び事業費の減額	影響なし	●	
高質空間形成施 設	市道第6.3-158号線 歴史的街路整 備事業	14.0	L=120m	10.7	L=120m	事業期間の延長及び事業費の減額	影響なし	●	
高質空間形成施 設	市道第6.3-164号線 歴史的街路整 備事業	12.6	L=65m	5.7	L=65m	事業期間の延長及び事業費の減額	影響なし	●	
高質空間形成施 設	市道第6.3-186号線 歴史的街路整 備事業	3.5	L=50m	0.6	L=50m	事業期間の延長及び事業費の減額	影響なし	●	
高質空間形成施 設	都市計画道路常盤通佐間線沿道文 化ゾーン整備事業	65.0	L=250m	61.0	L=250m	事業費の減額	影響なし	●	
高次都市施設	行田市バスターミナル観光案内所整 備事業	58.0	A=150.7㎡	50.7	A=150.7㎡	事業費の減額	影響なし	●	
既存建造物活用 事業									
都市再生交通拠 点整備事業									
土地区画整理事 業(都市再生)									
住宅町街地 総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅町街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業									
事業活用調査									
まちづくり活動推進事業	地域まちづくり活動支援事業	5.4	—	1.4	—	事業期間の短縮及び事業費の減額	影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画			
おもてなし活動支援事業		外国語観光ボランティアガイド養成、観光ガイドの新規育成、既存観光ガイドの知識の向上	0.4	0.4	H28～H31	H28～R1			
地域散策マップ作成事業		「足袋と足袋蔵」のポスターを制作、観光客配配布用のパンフレット作成	2.0	2.0	H28～H31	H28～R1			
アーケード修景整備事業		新町通り沿いの商店や歴史的建築物を活かした景観形成のため、アーケードの修景または撤去	15.2	15.2	H30～H31	H30～R1			
ふるさとづくり事業		足袋蔵等歴史的建築物、行田らしいまち並み、おもてなしにぎわい創出、日本遺産構成資産に対する補助制度	—	—	H25～	H25～			

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	評価	あり	なし			
指標1	まちづくり活動への参加者希望率	%	令和2年1月に公表された行田市市民意識調査による「地域活動への参加意向」の結果を計測し、評価値(確定値)とする		48.1	H21	70.0	R2	モニタリング			モニタリング			●
									事後評価	確定 ●	45.3	事後評価	×		
指標2	街なみ満足度	%	令和2年1月に公表された行田市市民意識調査による「環境の良さ」の項目のうち「歴史や文化との調和」について計測し、評価値(確定値)とする。		32.0	H21	45.0	R2	モニタリング			モニタリング			●
									事後評価	確定 ●	41.6	事後評価	△		
指標3	中心市街地の人口減少率	%	平成27年及び平成22年国勢調査の人口をもとに、中心市街地(行田地区及び忍地区)の人口減少率を算出し、評価値(見込み値)とする。		-5.6	H22	-2.8	R2	モニタリング			モニタリング			●
									事後評価	確定 ●	-6.7	事後評価	×		
指標4	地区内観光入込客数	人/年	令和元年度における各施設及びイベントの観光客数を各所管課及び団体に問合せ、地区内観光客入込数として算出し、評価値(確定値)とする。		350,000	H25	450,000	R2	モニタリング			モニタリング			●
									事後評価	確定 ●	295,000	事後評価	×		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	行田市市民意識調査の結果では、まちづくり活動への市民の参加意向は45.3%であり、目標値の70.0%に及ばず、従前値の48.1%をも下回ったことから、評価は×とした。	
指標2	行田市市民意識調査の結果では、まちづくり活動への市民の参加意向は41.6%であり、目標値の45.0%に及ばなかったものの、従前値の32.0%を9.6ポイント上回ったことから、評価は△とした。	
指標3	中心市街地の人口減少率については、市全体の人口減少傾向もあり、従前値の-5.6%を下回る-6.7%となる見込みであることから、評価は×とした。	
指標4	映画「のぼうの城」やテレビドラマ「陸王」による誘客効果が薄れつつあることから行田市全体の入込客数の減少傾向にあるとともに、従前値の計測以降中止になったイベント等もあり、地区内観光入込客数は、従前値の350,000人を下回る295,000人となったことから、評価は×とした。	交付期間中に中止になったイベントのほか、令和元年度末からの新型コロナウイルスの影響により、適正な評価値の計測が困難な状況にある。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
				基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	見込み		
その他の 数値指標1	地域活動の所属割合(自治会、NPO団体、ボランティア団体等)	%	「秩父鉄道行田市駅周辺地区住民と来訪者のまちづくり意識調査研究一報告書(R2.3)」より、市民の地域活動の所属割合の調査結果を計測する。		46.0	H27	モニタリング			市民主体のまちづくり推進の成果として、実際に地域活動(自治会、NPO等)に参加している市民の割合を計測する。
							事後評価	確定 ●	見込み	
その他の 数値指標2	住民基本台帳による中心市街地の人口減少率	%	住民基本台帳の人口をもとに、平成27年及び令和2年における4月1日時点の中心市街地(行田地区及び忍地区)の人口減少率を計測する。		-5.1	H27	モニタリング			中心市街地における人口減少抑制の成果の確定値として、住民基本台帳による人口減少率を計測する。
							事後評価	確定 ●	見込み	
その他の 数値指標3	中心市街地の主なまつり(浮き城まつり、忍城時代まつり、酉の市)の入込客数	人/年	関係課のデータをもとに、平成25年度と令和元年度における中心市街地の主なまつり(浮き城まつり、忍城時代まつり、酉の市)の入込客数を計測する。		114,000	H25	モニタリング			中心市街地で開催されるイベントについては、近年中止になるものもあることから、中心市街地における代表的なまつりに限定して入込客数を計測する。
							事後評価	確定 ●	見込み	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的街路整備事業により整備された路線が市民や来訪者に好評である。 ・歴史的街路整備事業により整備された道路の沿道建物が、まち並み景観形成先導モデル事業によって修景整備を行うケースが増えてきており、良好な街なみ景観が形成されようとしている。
--

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
まちづくり意識調査研究	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● ・平成27年度～令和元年度に年1回実施し、行田市民及び来訪者を対象にまちづくりの意識や意向について、調査研究を行った。	
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
歴史的街路整備事業に伴う住民説明会	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● ・平成27年12月に事業概要と工事に関する説明会を開催し、地権者12名が参加。 ・平成29年10月、工事の実施に向け説明会を開催し、地権者15名が参加。	
市民活動の活性化に向けた課題と活動方針を明らかにする「まちにぎワークショップ」	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● ・平成27年度は4回開催し、参加者数は延べ79人。また、年度末にまちにぎワークショップの成果報告に係る報告会を開催した。 ・平成28年度も4回開催し、参加者数は延べ41人。また、年度末に一般市民へ向けてのまちにぎワークショップの成果報告に係る報告会を開催した。	
緑化活動	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● ・まちにぎワークショップの成果による活動として「緑化活動」を決定した。 ・平成29年7月に説明会を開催し、9月に第1回(植物の選定)、10月に第2回(植栽作業)の活動を行った。 ・説明会を含めた延べ参加人数は40人。 ・平成30年12月にも緑化活動を実施し、39名が参加。	

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
行田市バスターミナル観光案内所における利用者の要望・苦情対応	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● ・平成31年4月より、行田市バスターミナル観光案内所において利用者の要望・苦情対応を実施。 ・受付は1か月に数件。内容によって市の所管課に報告。		・要望・苦情対応を継続する。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	環境経済部 商工観光課 都市整備部 都市計画課 建設部 道路治水課 生涯学習部 文化財保護課	令和2年10月6日	都市整備部 都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他の数値指標1		その他の数値指標2		その他の数値指標3			
指標名		地域活動の所属割合(自治会、NPO団体、ボランティア団体等)		住民基本台帳による中心市街地人口の減少率		中心市街地の主なまつり(浮き城まつり、忍城時代まつり、西の市)の入込客数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	地域生活基盤施設 街なかサイン整備事業	○	実際に地域活動の団体に所属している住民の割合は、平成27年度の46.0%から、令和元年度は51.0%に増加した。 歴史的街路整備事業の実施に向けた意見交換会や地域まちづくり活動支援事業等による地域住民と関わりを通じ、実際に地域活動の団体に所属している住民の割合が増加した。	○	住民基本台帳による中心市街地の人口については、平成27年4月1日時点の-5.1%から、令和2年4月1日時点では-4.6%であり、減少率が抑制された。 街なかサイン整備事業等の各基幹事業の実施により、全般的に中心市街地における居住環境が向上し、住民基本台帳によるデータでは、中心市街地の人口については、減少率が抑制された。	◎	中心市街地の主なまつり(浮き城まつり、忍城時代まつり、西の市)の入込客数の合計については、年度によって変動があることや「西の市」に関しては減少傾向にあるものの、平成25年度の11万4千人から、令和元年度は11万9千人に増加した。 映画「のぼうの城」やテレビドラマ「陸王」による誘客効果が徐々に薄れてきてはいるが、中心市街地の主なまつり(浮き城まつり、忍城時代まつり、西の市)については、一定の入込客数を維持している。		
	高質空間形成施設 市道第5.3-298号線 歴史的街路整備事業	○		○		○			
	高質空間形成施設 市道第5.3-303号線 歴史的街路整備事業	○		○		○			
	高質空間形成施設 市道第5.3-304号線 歴史的街路整備事業	○		○		○			
	高質空間形成施設 市道第5.3-306号線 歴史的街路整備事業	○		○		○			
	高質空間形成施設 市道第5.3-308号線 歴史的街路整備事業	○		○		○			
	高質空間形成施設 市道第5.3-310号線 歴史的街路整備事業	○		○		○			
	高質空間形成施設 市道第6.3-185号線 歴史的街路整備事業	○		○		○			
	高質空間形成施設 市道第6.3-158号線 歴史的街路整備事業	○		○		○			
	高質空間形成施設 市道第6.3-164号線 歴史的街路整備事業	○		○		○			
高質空間形成施設 市道第6.3-186号線 歴史的街路整備事業	—	—	—	—					
高質空間形成施設 都市計画道路常盤通佐間線沿道文化ゾーン整備事業	○	○	○	○					
高次都市施設 行田市バスターミナル観光案内所整備事業	○	○	○	○					
提案事業	まちづくり活動推進事業 地域まちづくり活動支援事業	◎		—		—		—	
関連事業	おもてなし活動支援事業	—		—		◎		—	
	地域散策マップ作成事業	—		—		◎		—	
	アーケード修景整備事業	—		—		—		—	
	ふるさとづくり事業	—		○		○		○	

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	市民主体による地域活動の継続及び拡大を図る必要がある。	住環境の維持・向上により、引き続き中心市街地の人口減少の抑制を図る必要がある。	観光案内所の機能や、歴史的な街なみによる景観の維持・向上を図る必要がある。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			資料3			指標4		
指標名		まちづくり活動への参加者希望率			街なみ満足度			中心市街地の人口減少率			地区内観光客入込数		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	地域生活基盤施設 街なかサイン整備事業	△	市民意識調査の結果からは、まちづくり活動への参加希望率は漸減する傾向にあり、令和2年調査においては45.3%で、平成21年調査の従前値である48.1%をも下回る結果となった。 本計画において、地域まちづくり活動支援事業として「まちにぎワークショップ」を開催するとともに、各種の事業を実施しているが、住民のまちづくり活動への参加意向には、あまり影響を与えなかった。	II	△	市民意識調査の結果からは、街なみ満足度は上昇の傾向にあるが、令和2年調査においては41.6%で、目標値の45.0%には及ばなかった。 目標の達成には至らなかったが、本計画における「都市計画道路常盤通佐間線沿道文化ゾーン整備事業」や市道の「歴史的街路整備事業」等が、街なみの改善に一定の効果をもたらしている。	II	△	中心市街地においては、市域全体を上回る人口減少が進んでおり、平成27年から令和2年にかけては-6.7%の減少率となる見込みであり、目標値の-2.8%を達成できなかった。 本計画において実施された各事業は、人口減少の抑制には、あまり効果が発揮しなかった。	II	△	行田市全体の入込客数が減少傾向にあるなかで、地区内入込客数も減少しており、令和元年度は295,000人となり、目標値の450,000人を達成できなかった。 行田市バスターミナル観光案内所整備事業等により、観光案内機能の向上は図られたが、本市の観光客増加に大きく貢献した平成24年公開の映画「のぼうの城」や、平成29年にテレビ放映された「陸王」による誘客効果が徐々に薄れてきていることが観光客減少の主要因と考えられ、さらにこの間に中止となったイベントがあることや、令和元年度末からの新型コロナウイルスによる影響がある。	II
	高質空間形成施設 市道第5.3-298号線 歴史的街路整備事業	△											
	高質空間形成施設 市道第5.3-303号線 歴史的街路整備事業	△											
	高質空間形成施設 市道第5.3-304号線 歴史的街路整備事業	△											
	高質空間形成施設 市道第5.3-306号線 歴史的街路整備事業	△											
	高質空間形成施設 市道第5.3-308号線 歴史的街路整備事業	△											
	高質空間形成施設 市道第5.3-310号線 歴史的街路整備事業	△											
	高質空間形成施設 市道第6.3-185号線 歴史的街路整備事業	△											
	高質空間形成施設 市道第6.3-158号線 歴史的街路整備事業	△											
	高質空間形成施設 市道第6.3-164号線 歴史的街路整備事業	△											
	高質空間形成施設 市道第6.3-186号線 歴史的街路整備事業	△											
高質空間形成施設 都市計画道路常盤通佐間線沿道文化ゾーン整備事業	△												
高次都市施設 行田市バスターミナル観光案内所整備事業	△												
提案事業	まちづくり活動推進事業 地域まちづくり活動支援事業	△											
関連事業	おもてなし活動支援事業	—											
	地域散策マップ作成事業	—											
	アーケード修景整備事業	—											
	ふるさとづくり事業	—											

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果があったと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	既存のまちづくり組織等の活動状況のPRや情報交換、まちづくり活動のリーダー育成などにより、市民主体のまちづくり活動を活発化させる必要がある。	歴史的街路整備と調和する街なみづくりのルールや建替への支援など、景観の向上に資する取組が必要である。	空き家などの既存ストックの活用による多様な住まい方の提供などにより、中心市街地における一定の定住人口を確保する必要がある。	公共交通による利便性の向上、まちの魅力とする日本遺産を中心とした観光資源等の情報発信により、交流人口の増加を図る必要がある。

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	環境経済部 商工観光課 都市整備部 都市計画課 建設部 道路治水課 生涯学習部 文化財保護課	令和2年10月6日	都市整備部 都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
まちづくり活動に対する市民意識の低さと活動団体間の連携不足	・主に中心市街地における市民の地域活動(自治会、NPO団体、ボランティア団体等)への所属割合は増加している。	・地域活動への市民の所属割合は増加しつつも、まちづくり活動に対する意識は高いとは言えない。	・地域活動への市民の所属割合は増加しているため、この傾向を継続していく必要がある。
空き店舗や空き地の増加に伴う商店街の活力・魅力の低下	・空き店舗等を活用した事業展開を行い、その後市内に定着して営業を継続している事業者がいる。	・中心市街地の空き店舗や空き地については、依然として増加している。 ・空き家や空き店舗の利活用に対する所有者の意識が低い。	・空き家・空き店舗の利活用ニーズに対応するため所有者の利活用に対する意識の醸成を図る必要がある。
忍城址や足袋蔵など豊富に存在する歴史・文化的資源の点在による一体感の不足	・歴史的街路整備事業等により、道路空間が整備され、歴史・文化的資源との一体感が形成された。	—	・歴史的街路整備事業が行われた沿道において、道路空間と一体的な沿道景観の形成が必要である。
若年層の人口流出や流入人口の低減による定住人口の減少	—	・中心市街地の人口減少傾向は若干鈍っているものの、国勢調査によれば、市全体の減少率を上回っている。	—
発着拠点における観光案内機能の不足	・行田市バスターミナル観光案内所の整備により、観光案内機能の向上が図られた。	—	・JR行田駅等からの行田市バスターミナルまでのアクセス性の向上が必要である。

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	歴史的・文化的資源と調和した街なみの維持・向上	・歴史的街路事業等により整備された道路空間の適正な管理や沿道建物の修景整備により、歴史的・文化的資源と調和した街なみの維持と向上を図る。	・整備された道路の維持・管理 ・街なみのルールづくりの検討 ・沿道建物の修景整備の支援 ・地域と連携した道路周辺の美化活動
行田市バスターミナルにおける観光案内機能の維持・向上	・整備された行田市バスターミナル観光案内所の適正な管理やアクセス性の向上により、観光案内機能の維持と向上を図る。	・観光案内所の維持・管理 ・観光案内所周辺の美化活動 ・公共交通等による行田市バスターミナルへのアクセス性の向上 ・SNSを活用した観光案内	

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	市民主体のまちづくり活動の継続・拡大と市民意識の啓発	・既存のまちづくり活動に関する情報発信とともに、行政や関係団体等との連携により、市民主体のまちづくり活動の継続・拡大と市民意識の啓発を図る。	・「花手水」や「蔵めぐりまち歩き」等、地域のまちづくり活動の情報発信 ・フィルムコミッションとの連携による市民のまちづくり活動参加へのきっかけづくり ・まちづくりに関するセミナー開催、リーダー育成、まちづくり専門家派遣等による地域住民や団体等への支援
	中心市街地の回遊性や魅力の向上	・各種イベント等の情報発信とともに、歩行動線に併せたにぎわいの創出や休憩スペース等の充実により、回遊性と魅力の向上を図る。	・「花手水(再掲)」、「蔵めぐりまち歩き(再掲)」、「テアトルヴェール」、「はちまんマルシェ」等のイベントや日本遺産に関する情報発信 ・空き家、空き店舗の利活用によるにぎわい創出、休憩スペース等の確保 ・まちの案内人、観光ガイド等の充実
	中心市街地における人口減少の抑制	・空き家などの既存ストックの利活用や、多様な住まい方の提供より、中心市街地における一定の定住人口の確保を図る。	・「ぎょうだ動画ちゃんねる」等を活用した行田市の住環境のPR ・空き家、空き店舗等のリフォーム、リノベーション等による住居や就業の場の創出 ・空き地の利活用促進

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	まちづくり活動への参加者希望率	%	48.1	H21	70.0	R2	確定 ●	45.3	×	あり	→		
							見込み			なし ●			
指標2	街なみ満足度	%	32.0	H21	45.0	R2	確定 ●	41.6	△	あり	→		
							見込み			なし ●			
指標3	中心市街地の人口減少率	%	-5.6	H22	-2.8	R2	確定	-6.7	×	あり	→	令和3年4月以降	令和2年度国勢調査の結果が公表された時点で、中心市街地(行田地区及び忍地区)の人口減少率を算出し、評価値とする。
							見込み ●			なし ●			
指標4	地区内観光入込客数	人/年	350,000	H25	450,000	R2	確定 ●	295,000	×	あり	→		
							見込み			なし ●			
その他の数値指標1	地域活動の所属割合(自治会、NPO団体、ボランティア団体等)	%	46.0	H27	/	/	確定 ●	51.0	/	/	→		
その他の数値指標2	住民基本台帳による中心市街地の人口減少率	%	-5.1	H27	/	/	確定 ●	-4.6	/	/	→		
							見込み						
その他の数値指標3	中心市街地の主なまつり(浮き城まつり、忍城時代まつり、酉の市)の	人/年	114,000	H25	/	/	確定 ●	119,000	/	/	→		
							見込み						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		観光客入込数については、映画やテレビドラマなどの外的要因による影響も大きいことから、従前値や目標値の設定に対しての配慮が必要である。また年度毎にデータが把握できる指標に関してはモニタリングにより、必要に応じて目標値の設定等に関して検証を行うことも必要である。
	うまくいかなかった点	数値指標4：地区内観光客入込数については、データの推移をみると従前値の設定年度である平成25年度がピークであったことがわかる。これは前年に公開された映画「のぼうの城」やテレビドラマ「陸王」による誘客効果が最大の要因である。その後、誘客効果が徐々に薄れ観光客入込数は減少傾向となり、目標値の45万人に対して29.5万人（約66%）にとどまった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		目標・整備方針と数値指標の整合、効果を発揮させるため実施する事業についての関連性を明確にする必要がある。
	うまくいかなかった点	数値指標1：まちづくり活動への参加希望率、数値指標3：中心市街地の人口減少率の達成に向けて実施した基幹事業については、直接的な効果を発揮したとは言いにくい状況にある。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	歴史的街路整備事業実施にあたり、地元住民への説明会を開催し理解を得られた。また、個別の路線についても住民の意見を取り入れて実施した。	住民参加や利用者の意見を取り入れることは、円滑な事業を実施する上で有効である。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点	総合振興計画に掲げた値（政策上の値）を目標値としたため、個別事業である本計画の目標値とするには高かったものの、それを目指した事業を実施したことで、指標によっては一定の成果を得られた。	政策目標と個別事業目標のすみ分けが必要である。
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	「市報ぎょうだ」への掲載により周知し、都市計画課窓口、ホームページへの掲載により公表を行う。	令和2年12月1日(火)から令和3年1月4日(月)まで	令和2年12月1日(火)から令和3年1月4日(月)まで	電子メール、郵送、ファックス	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	「市報ぎょうだ」への掲載により周知し、都市計画課窓口、ホームページへの掲載により公表を行う。	令和2年12月1日(火)から令和3年1月4日(月)まで	令和2年12月1日(火)から令和3年1月4日(月)まで		
説明会・ワークショップ					
その他					
住民の意見	意見なし				

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	田尻 要(ものづくり大学技能工芸学部建設学科教授)	令和2年9月16日(第1回) 令和3年2月4日(第2回)	都市整備部 都市計画課	行田市都市再生整備計画事業事後評価委員会 設置要綱	独自に設置
その他の委員	吉野 修(行田市議会建設環境常任委員会委員長) 根岸幸司(埼玉県行田県土整備事務所長) 宮 晴夫(市民)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・3名の委員から、事業の整備効果が必ずしも指標を大きく改善する結果には至らなかったが、客観的にみて事業のハード面に関しては「いいものが出来た」という意見があった。 ・市民のまちづくり活動への参加意識が向上しなかったことに対しては、今後もワークショップ等で地域への働きかけを継続していただきたい、という意見があった。
	実施過程の評価	・特になし。
	効果発現要因の整理	・特になし。
	事後評価原案の公表の妥当性	・パブリックコメントにより、適正に公表されたことが確認された。
	その他	・全般的にみて、設定された数値指標が高く、クリアするのが難しかったとの印象があるが、その点については本事業以外も含めて、指標の改善に向けて取り組んでいただきたい、という意見があった。
事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であることが確認された。	
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・2名の委員から、ハード面に関しては、せっかくいいいものを作ったので、今後も永く使えるように維持・管理をしっかりやっていただきたい、という意見があった。 ・「市民主体のまちづくり活動の継続・拡大と市民意識の啓発」という改善事項に対して、都市計画課からは、コロナ禍の収束を見据え、八幡通りにおける修景整備や沿線のまちづくりに向けて市民参加のもと、行政との役割分担も明確にしなが、意見交換等を再開していきたい、という報告があった。また、市の地域づくり支援課では、サポートセンターや活動資金の充実、市民公益活動推進委員会の開催などにより、市民主体のまちづくり活動の活発化に取り組んでいる、という報告があった。 ・委員から、指標4の観光入込数についてであるが、令和2年度はこのような状況でだいぶ落ち込むと思うが、DMO(観光地域づくり法人)の立ち上げを契機に、コロナ禍収束後の観光施策に積極的に取り組んでいただきたい、という意見があった。
	フォローアップ	・特になし。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であることが確認された。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。